

日本医師会インターネット生涯教育協力講座<アトピー性皮膚炎における外用療法の実際>
実例を通して学ぶ診療のポイント 小児の場合 - 4

寛解維持期の治療成功のカギとは

● 総監修 ●

東京逋信病院皮膚科

江藤 隆史

● パート監修 ●

国立成育医療研究センターアレルギー科

大矢 幸弘

寛解維持期の治療成功のカギとは

◆以下は、国立成育医療研究センターの実例である。

【1】スキンケア実施表

○スキンケア実施表の意義

- 寛解維持期の治療を進め、軽快に持ち込むには、患者が「自分自身で治す」という意識を持ち続けることが不可欠である。
- そのモチベーションを持続させるためには「スキンケア実施表」が有効である。



症例として取り上げた5歳女児の保護者の保護者の話

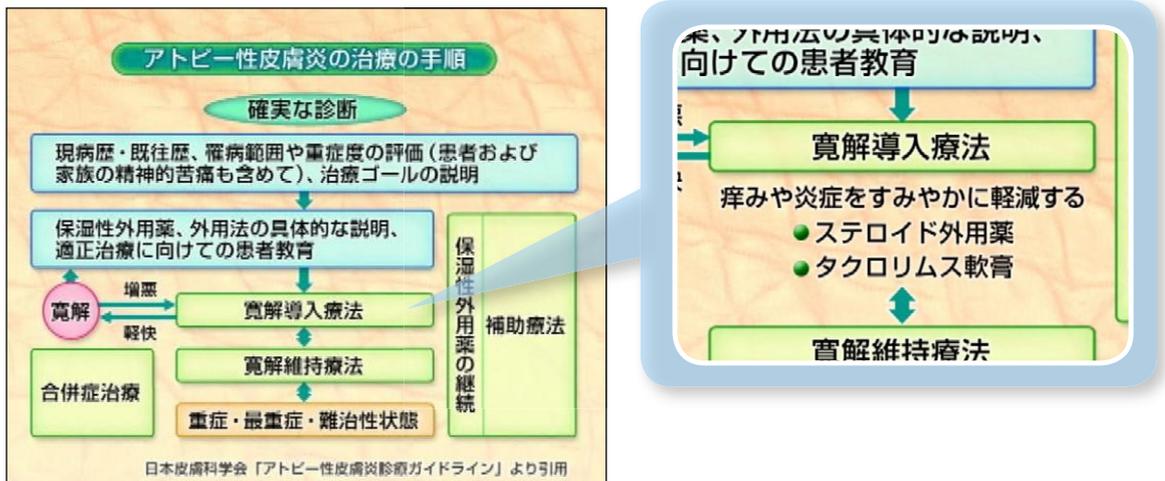
- 前後に余分に塗ることもあれば、気持ちの上で面倒くさくてさぼってしまうこともあるが、「スキンケア実施表」をつけておくと、後で何か症状が出たときに「あのときサボったからだ」ということがわかるので、そのためにも継続してつけようという気持ちになる。
- 外来診療があるときは、前回から今回の外来までどうだったかを見て、サボった時期やステロイドを余分に塗った時期などを把握し、診察の前日に頭の中を整理して、医師に質問するように心がけている。

- このような日課を継続するのは、ライフスタイルを変えなければできないような、大変に努力を要することである。
- この苦勞を続けている保護者や患児本人を、正當に評価してあげることが非常に重要である。
- 最初の困難を乗り越えれば、その努力に見合った報酬が本人と家族にはもたらされることを信じてもらう。
- その努力に対し、医師は全面的にバックアップしていくという姿勢で診療する。



【2】症状が持続、あるいは頻回に再燃を繰り返す場合の寛解維持療法

- 日本皮膚科学会・アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの「治療の手順」では、症状が持続、あるいは頻回に再燃を繰り返す場合の寛解維持療法として、ステロイド外用薬の間欠的な使用と、症状の拡大増悪防止のために早期のタクロリムス軟膏の使用を勧めている。



- 子どもの場合は、大人に比べると比較的早くステロイドがほとんど要らなくなる。
- かなり重症な患児でも、ステロイドを塗る頻度をより早く少なくすることができる。

子どものプロアクティブ療法では、最終的にステロイドを使わずに保湿剤でスキンケアができる状態を最終目標にできる。

【3】まとめ

アトピー性皮膚炎治療成功のカギは、「治療ゴール」つまり目標を定め、医師に頼るだけでなく、「自分自身で治す」という意識を持つよう、患者指導することにある。